

第2回 生涯研修事業運営小委員会の会議概要 (学術・教育・研究委員会小委員会)

I 日 時 平成26年10月9日(木) 14:00~16:00

II 場 所 日本獣医師会・会議室

III 出席者

【委員長】 山田 英一 山田動物クリニック院長
【委員】 石黒 直隆 日本獣医公衆衛生学会長、岐阜大学応用生物科学部教授
岡本 芳晴 鳥取大学農学部教授
御領 政信 岩手大学農学部共同獣医学科教授
諸角 元二 とがさき動物病院院長
【本会】 酒井健夫(副会長)、矢ヶ崎忠夫(専務理事)

IV 議 事

- 1 第1回委員会の検討結果(説明)
- 2 獣医師生涯研修事業の整備・充実について(検討・協議)
 - (1) 生涯研修事業新システム作成に向けた対応
 - (2) 生涯研修事業在宅研修用教材(日本獣医師会雑誌掲載「生涯研修のページQ&A」)の作成
 - (3) 本会の「女性獣医師支援特別委員会」との連携(復職支援等)
- 3 「生涯研修事業のページQ&A」の企画担当(協議)

V 会議概要

開会にあたり酒井副会長から、「生涯研修事業は平成12年度から試行を開始し、平成15年度から実際の活動を行ってまいりました。生涯研修及び卒後研修は、獣医界全体のボトムアップに不可欠なものでありますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。本日は、前回の委員会において山田委員長にとりまとめをいただきました新システムの確認、在宅教材の作成についてご検討をいただきます。藏内会長が特別委員会を設置して力を入れて取り組んでおります課題に、狂犬病対策、医師会との学術連携、女性獣医師の就業支援があります。医師会、歯科医師会が行っています女性支援活動を、日本獣医師会も行いたく検討しております。現在750名の女性獣医師が無職でありますので、是非、女性獣医師の現場復帰に対する支援としてeラーニングシステムの利用、あるいはメディアを通じた情報発信を併せてご検討いただきたいと思います。この点について本日は、先生方からアイディアを出していただき、今後の方向についてご検討をいただければと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。」の旨の挨拶が行われた。

1 第1回委員会の検討結果（説明）

事務局から、前回委員会の概要については既に各委員に送付しており、修正意見がなかったことが報告され、異議なく了承された。

2 獣医師生涯研修事業の整備・充実について（検討・協議）

（1）生涯研修事業新システム作成に向けた対応

① 生涯研修事業 新システムの概要

事務局から、新システム作成の現在の準備状況やシステム構成の予定、サンプル画面が紹介されるとともに、新システムを利用した際の受講の確認方法等についての説明が行われた後、以下の意見が出された。

ア 講習会等の受講状況を認定医に関連付けるのであれば、カリキュラムの受講状況が記録されていなければならない。このため、新システムにおいてカリキュラムをはじめとする過去の受講状況が記録されることは望ましい。

イ 新システムでは、講習会等の受講事実の確認方法として、講習会会場において出席確認のためのキーワードを掲示したり、キーワードを印字した用紙を配布し、このキーワードをインターネット上でシステムに入力することによって受講確認を行う方法を予定している。しかし、この方法では講習会等を受講していない獣医師にもキーワードが利用される恐れがあるとの意見もあろうが、本事業はあくまでも受講者の性善説に立っているため、これに従って取り扱って良いのではないかと。

ウ 講習会会場にキーワードを掲示して通知する場合、書き写しや書き間違いが生じる恐れがあり、また、受講者の作業が煩雑になるため、キーワードは講習会等で配布するテキストに印字して通知することが望ましい。なお、開催準備の都合等によりテキストへの掲載が困難な場合には、キーワードを用紙に印字してテキストに挟み込むこと等による通知方法が望ましい。

エ 年度の初めに、各地区や各地方獣医師会における講習会等の開催計画を公表することができれば各獣医師の受講計画が立てやすくなるが、必ずしも全ての地区や地方会において予め開催計画を立てているとは限らない。

② 申告における地方会の事務手数料及び③非会員のシステム利用について

新システムが導入されることにより、これまで地方獣医師会が行ってきた研修実績の確認作業や手数料徴収作業が不要となることから、地方獣医師会に対して還元していた申告獣医師1人あたり3,000円の事務手数料を還元しないこと、さらに、地方獣医師会に入会していない非会員獣医師の新システム利用に当たっては、システム利用料と申告手数料を併せて7,500円とすることの事務局案が提示された後、以下の意見が出された。

ア 新システムの導入により地方獣医師会の事務作業が無くなるのであれば、地方獣医師会へ還元する事務手数料を無くすことは理解できる。さらに結果として各獣医師が支払う申告手数料が減額することは良いことではないかと。しかし、地方獣医師会によ

っては手数料を0円とすることに問題が生じる場合もあるのではないかと。

- イ 非会員獣医師による新システムの利用については、事務局提案のように構成獣医師と明確に区別し、非会員獣医師からはシステム利用料を徴収してシステムを利用してもらうことで良いのではないかと。
- ウ 個々の獣医師から日本獣医師会に直接、事務手数料を振り込むことになるので、今後、クレジットカードの利用による決済が可能となるように検討を進めることが望ましい。

(2) 生涯研修事業在宅研修用教材（日本獣医師会雑誌掲載「生涯研修のページQ&A」）の作成

日本獣医師会雑誌に掲載されている獣医師生涯研修のページQ&Aのハンドブック化について、事務局から、著作権トラブルが発生しないよう確認のうえ、平成27年度内の発刊を目指して作成準備を進める旨の説明が行われた後、以下の意見が出された。

- ア これまでの掲載内容には語句や体裁を含めてかなりばらつきがあり、また、内容についても精査する必要があるため、かなりブラッシュアップを行わなければならない。
- イ これまでに掲載された内容の約半数が小動物分野であり、産業動物分野、公衆衛生分野の掲載数は少ないが、日本獣医師会の獣医師生涯研修事業のテキストとして作成するには、産業動物や公衆衛生の両分野の内容もハンドブックに掲載するべきである。
- ウ 産業動物、小動物、公衆衛生の各担当分野ごとに、過去のQ&A掲載内容を小委員会委員に送付し、ハンドブックへの掲載の可否やジャンル分けの作業をはじめとする内容確認作業を行ってはどうか。
- エ Q&Aの掲載内容をeラーニングシステムに掲載することについては、今後の運営委員会において検討を進めてはどうか。

(3) 本会の「女性獣医師支援特別委員会」との連携における復職支援等について

事務局から、本会の女性獣医師支援特別委員会の検討内容が説明された後、酒井副会長から、女性獣医師の現在の就業状況や農林水産省からの助成により実施した女性獣医師に関するアンケート調査結果の説明が行われるとともに、女性獣医師の復職支援の推進には獣医師生涯研修事業と連携して対応するべきである旨が述べられた後、本件についてフリートーキング形式で以下のとおり意見交換が行われた。

- ア 750名の女性獣医師が就業していないとのことであるが、就業支援を行うとしても地方獣医師会の会員でない場合には連絡先が分からず、支援の働きかけ等ができないのではないかと。
- イ 女性獣医師の連絡先は獣医師法第22条の届出によって農林水産省が情報を持っていると思われるが、個人情報であり開示することはできないと考えられる。
- ウ 現在就業していない女性獣医師の多くが復職を望んでいるものの、復職に必要な技術等を修得しているという自信をある程度は持っていないと、復職につながらない現状である。

- エ 産業動物分野、公衆衛生分野における公務員等の女性獣医師の就労環境等は整備されているものの、小動物臨床分野では復職が困難な現状がある。女性獣医師支援特別委員会では、出産後1週間で小動物の臨床現場に復帰した旨の発言もあった。
- オ いずれにしても、女性獣医師の復職には地方獣医師会の協力が必要不可欠である。地方獣医師会への入会を促進し復職を望む女性獣医師のための講習会等を開催することによって、復職を可能とするための知識・技術を学び直す環境を整備してはどうか。
- カ 地方獣医師会における女性獣医師の入会状況について、小動物臨床分野の勤務獣医師は病院単位で団体ごとに入会する場合もあり、女性の勤務獣医師の入会数がなかなか増えていかないという現状がある。
- キ 女性獣医師が地方獣医師会に入会していない場合でも声が届くよう、女性獣医師への復職に向けて、日本獣医師会と地方獣医師会のホームページを広く積極的に活用した広報活動を行ってはどうか。
- ク 地方獣医師会のホームページ上で参加者を募集している講習会を日本獣医師会のホームページでも公開し、参加者の募集に協力してはどうか。
- ケ 獣医師生涯研修事業の女性獣医師復職支援の協力活動として、今後、eラーニングシステムによる復職を望む女性獣医師向けのプログラムを作成してはどうか。また、これを効果的に利用してもらうためには、獣医師を目指す学生のうちから獣医師会のホームページを見る機会を増やすような努力も必要である。
- コ 講習会やシンポジウムをビデオで録画し、これをホームページ上でeラーニングのプログラムとして公開してはどうか。今後のeラーニングシステムの開発・利用に向け、ストリーミングによるプログラムについて検討を進めるべきである。
- サ 学会等で女性獣医師向けのプログラムを企画してはどうか。
- シ 医師会では368名の女性医師の復職就業が成立したとのことであるが、募集先との出会いの機会や復職に向けた自信を持たせるための講習等、どのように復職のチャンスを得たのか確認を行ってはどうか。
- ス 多くの女性獣医師の復職を叶えるためにはハローワークのようなレベルの募集や支援体制が必要である。医師会が行っている復職支援においては、手数料を徴収して対応を行っているのではないか。
- セ 日本医師会において女性医師や勤務医の理事を増員するなど、対応を推進しているようである。
- ソ 大学では人材バンクを設置しているものの、うまくマッチングができていない現状もある。

3 「生涯研修事業のページQ&A」の企画担当（協議）

日本獣医師会雑誌に掲載している「生涯研修事業のページQ&A」の執筆交渉担当委員について、平成28年12月発行分までの担当者（案）が事務局から提案され、産業動物分野は岡本芳晴委員と御領政信委員、小動物分野は諸角元二委員と山田英一委員長、公衆衛生分野は石黒直隆委員とすることを異議なく決定した。

また、文字数や画像の数等、原稿のフォーマットをある程度定めておくことが望まし

い旨の意見が出された。

VI まとめ

本委員会は、次のとおり取りまとめられた。

- 1 新システムの作成については予定通り作業を進めるとともに、今後、eラーニングシステムの稼働に向けた準備を進めること。
- 2 新システムの稼働に際した地方獣医師会の事務手数料額の変更、並びに非会員獣医師の新システム利用料金の設定については、事務局案が了承されたこと。
- 3 生涯研修のページQ&Aの作成については、小委員会の各委員による過去の掲載内容の確認の後、山田委員長と調整のうえ作成準備を進めること。